

は重要な位置を占めている。最近では、Premier Oil (英国)、Preussag (独) 等による石油開発プロジェクトのスタート、欧州企業によるクロム産業に関する商談が進むなど、外国企業による活動が活発化している。

(2) 主要鉱産物の生産動向

銅：国営銅公社Albbakerによると、97年初頭の混乱で、同公社の生産施設の大部分が破壊され、ほとんど生産ができない状態になった。同国の銅生産量は、80年代は150千t/yのレベルであったが、90年代に入りこれが激減し、96年の生産量はわずか2千tであった。同公社では、復旧作業を急いでおり、Rubik精錬所等の回収を進め、98年2月頃からの生産開始をめざしている。計画では98年のプリスターカッパーの生産は2.7-2.8千tで、99年には5,000tまで増やす。98年6月から輸出も再開する予定である。

クロム：クロム鉱石の生産は、国営のAlbkromが行っている。クロム鉱石の生産量は、80年代は百万t/yを記録したものの、その後施設の老朽化などで生産が低迷して、97年の生産量は17.5万tであった。英国、イタリア企業が、生産設備の近代化に関する商談を進めている。国営クロム公社では、投資額41百万ドルで、2年後に生産量を鉱石250

千t/y、フェロクロム80千t/yとする計画である。アルバニアのクロム資源は、消費地である欧州に近く、往年の生産量が回復するか期待されている。

(3) 探査・開発動向

国際協力事業団・金属鉱業事業団は、アルバニア地質調査所と共同で、首都ティラナ南東80kmのシュベニック地域で、クロム鉱床を対象に探鉱を行っている。Nebex Resources Ltd (加) は、Albbaker Corporation of Albaniaと、アルバニア中央部Munelle鉱床の探鉱契約に調印し、98年3月から現地調査に入った。これまでの、試錐調査で、富鉱部19m (銅7%、亜鉛8%、金7g/t) に着鉱している。このほか、Royal Rod (カナダ)、Karma Mining (カナダ) 等が探鉱を行っている。

参考文献

- Mining Annual Review, 1996 (Mining Journal)
 Mining Annual Review, 1997 (Mining Journal)
 Department of Mineral and Policy (1996) : Polish Minerals Yearbook, 1995.
 金属鉱業事業団 (1996) : 世界鉱業の趨勢. 海外鉱業情報Vol.26, No.4.
 金属鉱業事業団 (1998) : 世界鉱業の趨勢. 海外鉱業情報Vol.28, No.1.

KAMIYA Natsumi (1998) : Mining Industry in Central European Countries.

<受付：1998年9月11日>

<東欧メモ2> 地名表記

東欧は歴史が古く、その土地を支配する民族が入れ替わった歴史をもち、そのため地名はいろいろな言語で表されました。日本に伝えられたルートも異なるため、地名原則に従った呼び名として定着していないものがあります。地質学の世界では、地名が地質概念をあらわす単語とともにドイツ語ルートで紹介されたものも多く、英語読み・現地語読みと異なるものがあります。この特集号では、各報告文の間で地名表記の統一を図りませんでした。文中に領土問題等に結びつく地名表記が使われていたとしても、著者の好みを表しているわけではありません。(H)

<東欧メモ3> ドナウ川

ヨハン シュトラウスの「美しき青きドナウ」で知られるドナウ川は、ヨーロッパで二番目に長い川で、ドイツ南部の黒い森(シュバルツバルト)に発し、東進して黒海に注ぐまでに9ヵ国、約2,900kmを流れる。国により呼び名が異なり、ドイツとオーストリアでは「ドナウ」、ハンガリーで「ドゥナ」、チェコとスロバキアで「ドゥナイ」、ユーゴスラビアで「ドゥナフ」、ルーマニアで「ドゥナリア」、ウクライナでは「ドゥナイ」または「キリア」と呼ばれる。米英国などの英語圏では一般に「ダニユーブ」川と表記されている。(H)